

NPO 法人フリースペースたまいば 25 周年記念シンポジウム

# ともに生き、ともに学ぶ

学校の中に「居場所」が見つからない子どもたちが、多摩川（タマリバー）のほとりの小さなアパートに集まった。年齢はバラバラ。障がいがある子もない子も、やんちゃな子もおとなしい子も。そこで出会い、一緒にお昼ごはんをつくって食べ、遊び、音楽を奏で、語り合った。混沌とした日々の暮らしの中で、ぶつかり合い、悩み、笑い、喜び、力をもらいあった。ゆったりとした時間の流れの中で、さまざまな失敗を積み重ねながら、子どもたちは成長していった。そこは豊かな学びにあふれていた。

あれから 25 年。私たちが取り組んできた居場所づくりとはどういうものだったのか。そこで子どもとおとながどのようにしてともに育ち、多様に学びあう暮らしの場をつくってきたのか。皆さんとともに分かち合いたいと思います。

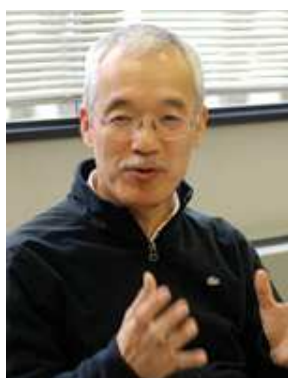
## 第一部

### 「居場所のもつ力」



**山口由美子**

西鉄バスジャック事件被害者「バクの会」元共同代表  
「ハッピービバーク」・親の会  
「ほっとケーキ」代表



**山下英三郎**

日本スクールソーシャル  
ワーク協会名誉会長

## 第二部

### 「ともに育ち、学びあう」



**加藤彰彦**

元横浜市小学校教諭  
寿町生活館・児相職員  
前・沖縄大学学長



**荘保共子**

NPO 法人こどもの里理事長  
(一社)日本ファミリーホーム  
協議会近畿ブロック代表

<コーディネーター 西野博之>

**2016年9月19日(月・祝)**

**13:30~17:00(開場 13:00)**

**高津市民館大ホール 前売り券:1,000円 当日券:1,200円**

JR 南武線「武蔵溝ノ口」・田園都市線「溝の口」駅 徒歩 1 分 『溝の口 ノクティ 2 (マルイファミリー)』12 階

主催 NPO 法人フリースペースたまいば

## パネルディスカッション(敬称略)

### 山口由美子 <やまぐち ゆみこ>

2000年5月に自分自身が被害を受けた「西鉄バスジャック事件」の体験を通して、少年犯罪に対しては安易な「厳罰化」ではなく、事件の背景を考えるべきであると訴え続けている。事件後、親と子が学び育ち合う居場所「ハッピービバーク」を仲間と共に開設。現在、不登校の子どもたちのためのフリースペースをサポートし、子育てに悩む親の会の代表を務める。

### 山下英三郎 <やました えいざぶろう>

日本社会事業大学名誉教授、日本スクールソーシャルワーク協会名誉会長。ユタ大学ソーシャルワーク学部修士課程卒業。1986年から埼玉県所沢市において、わが国で初のスクールソーシャルワーカーとして実践活動を行う。1987年から2010年までフリースペース「バクの会」の運営に携わる。近年は「修復的対話法(RJ)」の紹介と展開に取り組んでいる。

### 加藤彰彦 <かとう あきひこ>

大学卒業後、横浜市内の小学校教員を経て、日本列島を4年余り放浪し共同体巡りをする。1972年から横浜市役所、寿町生活館、横浜児童相談所のソーシャルワーカーを務める。横浜市立大学教授を経て2002年沖縄大学教授に。2012～2014年まで同大学長を務める。「野本三吉」名で社会福祉や子ども文化論などの執筆を多数手がける。

### 荘保共子 <しょうほ ともこ>

大学卒業後、教会の青年活動の中で釜ヶ崎の子どもたちと出会う。1977年、釜ヶ崎に地域の子どもの遊び場であり、親の育児放棄・いじめなど生きる上で困難を抱えた子どもが駆け込む学童保育「こどもの里」を開設。わが町にしなり子育てネット代表。子どもたちの権利擁護に取り組む姿やそこで育つ子どもたちをテーマにしたドキュメンタリー映画「さとにきたらええやん」が現在、各地で絶賛上映中。

## コーディネーター

### 西野博之 <にしの ひろゆき>

NPO法人フリースペースたまりば理事長。1986年より不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たちとともに地域で育ちあう居場所づくりに携わる。1991年に、「フリースペースたまりば」を開設。川崎市子ども夢パーク所長。「フリースペースえん」代表。文部科学省フリースクール等に関する検討会議委員。川崎市中学生死亡事件に係る専門委員として事件の検証にあたった。

## あらためて、問いなおす

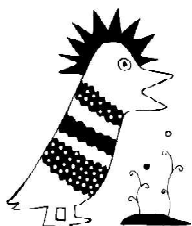
●私たちが運営する「フリースペースえん」に、下村前文部科学大臣が視察に来られたのが2014年10月。この頃から不登校児童・生徒がフリースクールや家庭など学校外で学ぶ機会を保障しようとする国の動きが活発になってきた。そこで焦点が当てられている「学習」とはどのようなものなのか。その質と中身が問われている。「支援」という名のもとに、上から薄っぺらな学習計画などが押し付けられるようなことがあってはならない。フリースペースにおける「学び」について、ともに理解を深めたい。

●昨年2月、川崎で起きた中学1年生死亡事件。なぜ、私たちおとなは被害少年のSOSに気づくことはできなかったのか。また、事件当時17・8歳だった加害少年たちは、なぜこのような事件を起こしてしまったのか。被害・加害双方にとって、家庭・学校・地域の中に居場所はなかったのだろうか。このような痛ましい事件が2度と起こらないように、私たちにできることは何なのか。ともに考える場としたい。

## フリースペースたまりばとは

1991年、学校や家庭、地域に居場所を見出しにくい子ども・若者たちの居場所として活動をスタート。2003年にNPO法人の認証を受け、同年7月にオープンした「川崎市子ども夢パーク」内の不登校児童・生徒のための居場所「フリースペースえん」の運営を市より委託される。指定管理者制度の導入により、2006年4月から(公財)川崎市生涯学習財団と共同で夢パーク全体(フリースペースえん含む)の管理・運営を行なっている。

「誰もが生きている、ただそれだけで祝福される」をモットーに、学校外の多様な学びと育ち、生き方を応援し、子どもとおとながともに育ちあう場づくりを続けている。



**NPO 法人フリースペースたまりば**

法人事務所 〒213-0022 川崎市高津区千年435-10

<http://www.tamariba.org>

チケット申込み・お問合せ TEL 044-833-7562 FAX 044-833-7534